

11月20日(土)は

麻生子八咫&山田武彦 活動写真弁士の音楽口演会

—活弁士と楽士が彩りを付ける無声映画の世界—を開催します。

全国でも数少ない活動弁士、麻生子八咫さんに伺いました。

1 活動弁士を始めたきっかけを教えてください。
父親が活動弁士だったことがきっかけです。小さい頃から家にはサイレント映画のビデオやフィルムがたくさんあり、父がいつも楽しそうに稽古をする後ろ姿を見て育ちました。楽しそうに物事に取り組んでいる姿って、興味を惹かれてしまいますよね。



2 10歳の時に浅草木馬亭で初舞台デビューということですが、何を語られたのですか。
デビューでは、チャップリンの『キッド』と『大番頭』という作品を演じました。両方とも、師匠との掛け合い活弁でした。元々人一倍大人しくて引っ込み思案だった私にとって、大勢の前でお話すること自体が初めてのことでした。大変緊張して、「緊張していない」と自分に思い込ませることで精一杯でした。でも、当日出迎えてくれた通路の補助椅子も立ち見の方もいらっしやるほどのお客さまたちがすごく温かくて、優しく、お客さんに救われたなと思うデビューでした。

3 活動弁士の成り立ち、歴史を教えてください。
映画が日本に上陸する以前は、活動弁士という職業はありませんでしたので、話術に長けた多方面の業界の人たちが活弁界に入ってきました。口上言い、政治演説に長けた者、講談、浪曲、落語、俳優、お坊さんや神主さんもいらっしやいました。活弁はさまざまな話術の影響を受けながら、創意工夫をしながら形成されていきました。そして、音声の出るトーキー映画の出現によって、活動弁士の多くが失業した後は、今度はその活弁の語り方が他の芸能へ影響していきました。

昔、小沢昭一さんから「新派の役者が活弁士から語り口調を学んだ」というお話を伺いました。紙芝居の語り口調や演歌の司会も、活弁の語りから大きく影響を受けています。芸態も昔はさまざまで、弁士が一人で語るスタイルだけではなく、10人前後の弁士たちがスクリーンの横に

立ち、声を演じていた声色弁士も人気でした。現在の声優業に繋がるものですね。様々な日本の芸能ジャンルから影響を受けて形成された活弁の話芸は、様々な芸能に影響を与えたといえるかと思います。

4 活動弁士にとって最も必要なことは？また、その魅力は？

発声でしょうか。相手にきちんと伝えることのできる基本の発声力がないと、いくら良い映画でも、いくら良い台本を書いても、伝わりません。声は鍛えれば鍛えるほど魅力的な声に変化していきます。同一の映画であっても、弁士の語りによって印象は大きく異なります。全く違う映画に見えてくることもあります。本公演では、ライブならではの息遣いや、声のパワーを感じていただければ幸いです。

5 今回は楽士(ピアニスト)が入りますが、活動弁士にとって楽士の存在は？

楽士は活弁をさらに盛り上げてくれる存在ですが、特に山田武彦氏の奏でる音楽は、非常に自由度が高く、会場全体を包み込んでしまう包容力がありますので、弁士の私はその中を思いつき遊び回れたらいいなと思っています。今回は、弁士の身体とピアニストの身体が映画にどのように融合していくのかという点に、ご注目いただきたいです。終演後、お客様の心に残る印象が、活弁なのか、音楽なのか、はたまた融合した「何か」なのか、ぜひライブの立ち合い人になっていただきたいです。すべてを出し切りたいと思いますので、みなさま応援のほどよろしくお願いたします。



6 活動弁士のお仕事の他にご興味のあること、取り組んでいる活動などお教えてください。

私は体験から学んでいくタイプで、ありとあらゆる体験が活弁に通じているので、日頃から多くの経験をするようにしています。例えば、チャップリンの『モダンタイムス』に登場するベ

ルトコンベアーで働くチャーリーの気持ちを知るために、某大手パン工場のベルトコンベアーで1ヶ月間週5日勤務をしたことがあります。昼間はスケジュールが合わず夜勤にしたので大変でしたが、今ではいい思い出です。

そういえば、師匠の麻生八咫も、床屋さんの役を知るために、床屋さんに修行に行ったことがあるらしいので、親子揃って似たもの同士ですね。さすがに人の顔は刺れなくて、風船にクリームを塗ってその上から日本剃刀で顔を剃る練習をしたらしいです。

最近では、YouTube動画製作も頑張っています。YouTube「あそう活弁TV」と英語版「Koyata Japan Channel」の他に、現代の映像に語りをつける試みとして「何でもアフレコ屋【こやた】」を始動しようとして準備しています。少しでも多くの人に活弁に興味を持ってもらえるきっかけになればと思っています。



上演作品「ジゴマ」より国立映画アーカイブ所蔵

7 今回のプログラムについて選ばれた理由と観どころ、聴きどころをご教示ください。

子どもから大人までハラハラドキドキできるような演目を選びました。王道のチャップリン映画と、当時爆発的大ブームとなり日本中に影響を与えた『怪盗ジゴマ』を選びました。サイレント映画自体は古いものだけけれど、実際にご覧いただくと、すごく新しく感じていただけるのではないかと思います。また、本公演に対する私の裏テーマを「弁士の身体」としましたので、身体との融合が面白そうな2作品を選びました。皆様ドキドキワクワクするような活弁公演にしたいと思いますので、ぜひ体験していただけたらと思います。劇場でお目にかかりましょう！

日本の伝統文化のひとつとも言われる活動写真弁士。無声映画、活動弁士が人気を呼んだ映画館の賑わいや活気、わくわくする雰囲気や味をぜひ味わってください。